



腕から指先にしびれがあり、「後縦靭帯骨化症」と診断されました。

「将来は積極的な治療の可能性もある」と言われましたが、現在は経過観察中です。指定難病ですが、様子を見るしかないのでしょうか？

(55歳男性)



# お答え します!

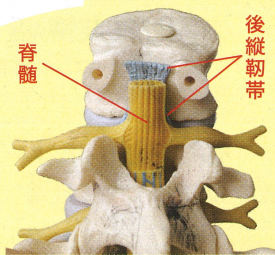
～読者から寄せられたご質問に答えるページです～

# A



仙台整形外科病院  
院長 佐藤 哲朗 先生

「後縦靭帯」とは、背骨をまとめている靭帯のひとつです(模型写真)。本来は薄くて柔らかい靭帯が厚くて硬い骨になり(骨化)、頸椎などで脊髄を圧迫し、手足に症状を出す病気を「後縦靭帯骨化症」といいます。



聞きなれない病名、それも指定難病ということで驚かれたと思いますが、「靭帯の骨化」そのものは歳を取れば誰にでも起こる現象です。しかし、何らかの理由で若くても目立った骨化が起こることがあり、それが神経を圧迫する場所にできると症状がでてきます。このような骨化は、日本人に多く、糖尿病や家族性の要因が指摘されていますが、根本原因はわかっていません。

症状にはさまざまな段階があります。手のしびれに始まり、箸やペンが使いづらい、足がしびれる、うまく歩けない、足に力が入らない、さらに重くなると排尿障害を起こすこともあります。

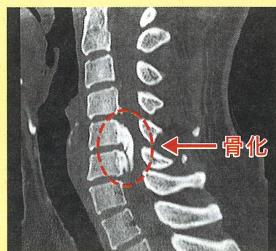
進行はゆっくりで、ある時から急に重くなるのが特徴です。重症化は10年先かもしれないし、生涯手のしびれだけで終わるかもしれません。

治療は、骨を開き、圧迫されている脊髄

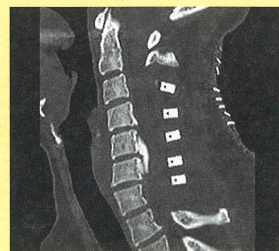
をゆるめる「脊柱管拡大術」などの手術を行います。手術による合併症はごくわずかとはいえゼロではありませんから、日常生活に支障が出たり、しびれが我慢できなくなったり、という段階で考えてもよいと思います。今後も3カ月から半年に1度の受診で、変化があれば主治医にご相談ください。しびれが強い時は、それを軽くするお薬もあります。

日常生活で怖いのは転倒です。転んだ時の衝撃が脊髄に加わると、最悪の場合、四肢麻痺を起こすことがあります。自転車に乗ったりお酒を飲んだ時は、特に注意が必要です。首を後ろにそらす状態を長時間続けるのも、脊髄が圧迫されてよくありませんので気を付けてください。

### 手術前後のCT画像



(手術前)  
骨化した靭帯が脊髄を圧迫



(手術後)  
脊柱管を拡大し、圧迫を解除